

八代農業高等泉分校学校泉分校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標	
【校 訓】	礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く
【教育目標】	自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成
【教育スローガン】	「新たな一步を踏み出そう！」 ～プラス1 より高く より前へ～
【重点目標】	(1) すべての教育活動における課題解決の推進と危機管理の徹底 (2) 学校・学科等の魅力ある教育の深化 (3) 効果的な情報発信と生徒募集への取組の推進 (4) 効率的、効果的、教職員の協働による教育活動・校務処理の推進 (5) 安心・安全で差別やいじめのない学校づくり (6) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進 (7) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進
【教育方針】	(1) 地域の誇れる生徒の育成 ア端正な制服と礼儀正しい生徒(礼節) イ目的達成に向けて努力する生徒(勤労) ウ自立心を持ち誠実に行動する生徒(誠実) エ命を大切にすることをもち他人(ひと)の痛みのわかる生徒 オ文化部・運動部・生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ活動に積極的に取り組む生徒 カボランティアや地域行事等へ積極的に参加し地域貢献ができる生徒 (2) 地域に誇れる教職員への支援 ア八農泉分校スクール・ミッション具現化のための教職員間の意思疎通と充実した取組 イ進路指導を核とした学習指導、進学・就職支援体制の構築と取組の推進 ウICTを活用した授業づくりの構築と取組の推進 エ普通教科・専門教科における最新の専門的な知識技術習得のための研修機会の支援 オ特別な支援を要する生徒の全教職員共通理解と情報共有に努め、保護者等や中学校、関係機関との連携を推進 カ研究授業等の活発化による、わかる授業、生徒が主体的に学べる学校づくりの推進 (3) 地域に誇れる学校づくり ア積極的な広報活動による「八農教育」情報発信の強化 イ幼・保・小・中学校、地域との教育交流の継続と深化 ウ積極的なボランティアや地元行事への活動参加による地域社会への貢献 エ安心・安全で差別やいじめのない学校づくり オ掃除や整理整頓が行き届いたきれいな教育環境づくり カ地域社会・住民に理解され愛される学校づくり

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>【教育指導の重点】</p> <p>「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指して。人間尊重の精神をすべての教育の根幹におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人一人の教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努める。また、学校間及び学校と家庭・地域社会との連携及び協働を図るとともに、スクールミッションのもと、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行い、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として必要な「生きる力」の育成を目指す。</p> <p>(1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 (2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実 (3) 道徳教育の充実と命を大切にす心の育成 (4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚の醸成 (5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実</p>

【 評価 】

[A] 十分達成できている [B] おおむね達成できている [C] やや不十分である

[D] 不十分である

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	・教育目標及び重点目標の共通理解と生徒・保護者及び地域への周知	・教職員の理解度100%生徒・保護者の理解度90%以上	・校内掲示、職員会議、保護者会、広報誌等での周知を行う。HP、学校運営協議会等の活用	B	・職員の理解度92.9%（昨年度比7.1ポイント減）、生徒の理解度89.3%（同26.8ポイント増）、保護者の理解度100%（同16.6ポイント増）であった。生徒・保護者には十分に理解され周知された。
	生徒募集	・募集定員の確保に向けての取組み ・取組みの見直し、創意工夫	・次年度入学者20人以上を目指し取組む ・具体的な取組みの工夫 ・具体的な魅力発信方法の工夫	・体験入学参加者確保 ・地域との交流連携事業 ・中学生の保護者・教員への魅力発信、 ・HPの充実 ・情報発信の創意工夫 ・中学校訪問の徹底	B	・コロナ禍により今年度の十分な体験入学はできなかった。 ・中止となった交流活動もあったが、継続的な交流ができた。 ・先生方の尽力で高頻度のHP更新や新聞等に記事が掲載され、多くの情報発信ができた。 ・個別の学校訪問に対し、丁寧に対応した。 ・約70の中学校を訪問した。 ・中学校説明会に改善の余地が見られた。
	魅力化発信	・本校の魅力や特色を発信できたか	・体験入学参加者確保 ・次年度入学者20人以上 ・外部からの具体的評価	・HP、パンフレット ・中学校等訪問 ・地域との連携 ・学校運営協議会の活用 ・スクールミッションの活用	A	・HPを日々更新することで学校の取組みを安定して発信することができた。 ・様々な活動とメディアによる発信で分校ならではの魅力は発信できた。 ・魅力化を発信するための学校パンフレット意外にリーフレットやアニメを活用した。
	教育的ニーズへの対応	・教育的ニーズへの新たな対応	・スクールミッションの活用 ・新教育課程	・スクール・ミッションの策定 ・外部評価との整合性を確認	B	・生徒、保護者を対象とした学校評価アンケートを実施した。また、学校評価委員による評価を実施予定である。

			<ul style="list-style-type: none"> に向けたカリキュラム編成 学校設定科目の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目及びその学習内容についての見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目の見直しは専門部を中心に進められている。 教職員をあげてスクールミッション・スクールポリシーについて深く検討した。 	
学校への適応指導の強化継続	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自身の目標をもって学校生活を送り、本校において自己実現を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校に適応できる環境づくり 校内における情報の共通理解 中途退学及び転学者を減らす対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報の系統科 気付きと情報の共有 適応できる環境作り、個別対応の強化と継続 中学校やSC、SSWとの連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒面談や家庭訪問、保護者との連携を緊密に行われ、教職員間での生徒情報の共有も日常的に行われ、支援や指導に生かすことができた。 心配される生徒はSCの面談を継続的に行い、保護者の面談も実施した。また、SC・SSW・児相・関係機関と連携し、ケース会議を実施することで課題解決を目指した。 昨年度に比べ、中途退学及び点学者が減少した。 	
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選及び整理、見直し 業務内容の見直しの推進 業務の負担感軽減と効率化への工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選及び整理、見直し 事務処理の簡略化 ICT活用 各職員の意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選等 資料配布の削減や復命内容の簡略化 簡易決裁による事務処理の簡略化 ICTの活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事の縮小や中止もあり、各行事を見直す機会となった。 ゆうnetによる校内連絡と文書セキュアでの公文書管理、メールでの文書配布が徐々に行われるようになった。 報告等は簡易決裁とし、事務処理を簡略化した。 考査午後には研修等を原則入れないようにした。 	
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善と教職員の意識改革により、さらに本校教育の質の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善への目標設定 徹底した意識改革 昨年度比減少を目指す 出張等の削減 業務の分担の調節 	<ul style="list-style-type: none"> 現状と課題確認 定期考査時の定時退庁 校外での会議や研修参加の精選 代休、特休の100%消化 年間15日の年休取得 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の全職員平均上期(4~9月)36.5時間に対し、下期(10~1月)34.1時間となった(-2.4時間)。 定時退庁日を設定したが、時間外の勤務時間短縮に繋がらなかった。 働き方改革の校内研修も実施した。 全職員の年休取得は10.5日となった(2/14現在)。 	
学力向上	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業への満足度(わかりやすい授業のための工夫がみられるか) 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断ツールでの成績向上 授業参加90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員によるわかりやすく魅力ある授業づくり 基礎力診断ツール結果の効果的な活用 授業参加状況の確認 普通教科における諸取組を徐々に拡大 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中より導入された1人1台端末をすべての教科で活用し、生徒にとって理解しやすく主体的に学び進めたい授業が展開できた。 90%以上の授業参加率を達成することができた。 基礎力診断ツール結果の効果的な活用については課題が残った。受けっぱなしにならないように、面談等で活用する方法を考えていく必要がある。
	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現欲求 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的な家庭学習と進路実現に 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が家庭学習課題を生徒へ与え、評価に及ぶまで適切 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着や卒業後の自己実現に向けた学習が、次第に生徒

			向けた向上心	に管理する体制づくり		主体で行われるようになった。教務部や教科の担当領域である一方、担任や当該学年団の熱心な指導によるところも非常に大きく、学校全体で得た成果である。
	教育のICT化	・一人一台端末配備に伴う、環境の整備とICT機器の稼働状況の向上	・生徒の基礎学力の定着 ・生徒のICT機器の操作スキル向上	・授業におけるICT機器の活用率の向上 ・教職員間の研究授業や職員研修の実施	A	・年度途中から配置を受けたICT支援員と連携し、担当職員が校内環境整備のために尽力した。先進実践校を除いては、県内屈指の成果が上がっているものと自負している。
	新学習指導要領施行に向けた諸整備	・「学習評価規程」の作成状況 ・「指導と評価の計画」(シラバス・年間指導計画)の枠の作成状況	・生徒や保護者、地域への明確な説明責任	・教務主任が主体的に作成を進め、教務部会と職員会議での協議	B	・「学習評価規程」の作成について、年度末までの完成を見込んで作業を進めることができています。 ・「指導と評価の計画」(シラバス)は、生徒は保護者への公開を前提とした泉分校独自の書式を設置し、9月のうちに各教科へ作成を依頼することができた。
専門教育	専門教育の充実	・生徒の授業への満足度 ・研究活動の成果	・授業満足80%以上 ・成果報告会の実施	・記録簿をとおして達成度の確認 ・泉町文化祭にて研究内容の報告	B	・泉分校の専門教科学習内容は、「生徒の興味関心を高める内容となっている。」と答えた生徒は80%程度であった。 ・成果発表として、校内発表会を実施し活発な質疑応答があった。
	地域との交流活動の充実	・地域との交流活動の状況	3年次、生徒アンケート調査において「できている」の回答80%以上	・専門教育で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践	A	・地域との交流について「できている」と答えた生徒は80%を超えていた。 ・イベントなどへの参加は最小限にとどまったが、各授業で交流を行うことができた。
	学校農業クラブ活動の充実	・各種大会への積極的取組および成績	・各種県大会上位入賞	・各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保	B	・県大会では、プロジェクト発表で優秀賞を得た。その他の競技会では入賞者はなかった。指導体制の確立が必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路活動支援	・より具体的な進路目標の確立を目指す	・全学年進路個別面談の実施 ・進路情報の継続的な提供による具体的な進路先の設定支援による内定100%	・進路資料提供、個別の面談等による指導 ・キャリアサポーターによる進路支援 ・進路室の開放、進路情報の提供 ・進学ガイダンスの活用	B	・個別面談やキャリアサポーターによる進路支援は円滑に実施することができたが、2月末時点で3年生の進路未決定者が1名という結果であった。 ・コロナウイルス感染症予防に努めながらミラ☆ツクなどの進路ガイダンスに参加し啓発に努めた。
	系統的キャリア教育の推進	・社会的・職業的自立に必要な能力の育成	・各学年に応じた進路ガイダンス、企業見学、企業交流、インターンシップ、緑の時間、社会人セミナー等を実施	・企業等外部機関との連携(オンラインを含む) ・インターンシップ、セミナー等の実施 ・職安、雇用整備協会等の事業を積極的に活用	A	・雇用整備協会から提供された進路情報誌やWEB動画を活用し進路についての学習を行った。 ・オンライン企業説明会、林業事業体への企業視察、インターンシップなどを体験することで、生徒が自立へ向けた系統的な職業意識を継続して高めることができた。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 校則の遵守 道徳モラルの向上 基本的な生活習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、時間、整容、言葉遣いを整える 社会規範の習得、道徳心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事、全校集会をととした全体指導の実施 日常の学校生活の中での個別指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの職員が全体と個別の両側面から、生徒の背景もとらえた指導を行っていた。 アンケートから、日常的な生活指導が不足しているとの意見が生徒や職員から上がった。 道徳的な指導で生活指導を対応しようとしたことの限界が露呈。
	交通安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教育の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導の充実 自転車及び原動機付自転車の点検実施 原動機付自転車通学生の安全運転意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故0件 計画的な全体指導 個別指導を適宜実施 毎月の自転車及び原動機付自転車の整備点検の実施 毎学期の原動機付自転車安全講習会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数は0、違反件数は0であった。 自転車の点検は毎月行った。 原付通学生はおらず、安全講習や点検は実施していない。 交通安全に関する情報を各学級に流し、集会時に話すことで、意識付けはできた。 危険予測や分校生の死亡事故に盛り込んだ交通講話を実施。
	自治活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校農業クラブや生徒会等において生徒が自律的・主体的な計画を行い運営する 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の生徒アンケートで「学校行事が充実していた」の回答70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を明確に持った学校行事の計画 自分たちの手で、より良い学校を築いていくための自律的精神の育成 活動の振り返りを行うことで、成果を自信にして次の活動への活力を持たせる取組の強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍による制約の中で、工夫しながら行事の運営を行った。 うまく運営できなかった行事では反省を行い、次の行事では改善していた。 行事への主体的な参加も80%近くができていてアンケートで回答。 少ない人数での運営から、担当生徒の負担は大きかった。
人権教育の推進	人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな人権課題に関心をもち、あらゆる差別や偏見を許さない態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育LHRと人権教育講演会の充実 職員研修の充実 人権に配慮した言語環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会で人権教育の指導方法の共通認識を図る 人権に配慮した発言の意識高揚と職員研修における検証 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に人権教育LHRを実施し、生徒の人権意識の高揚を図った。 2学期には「部落差別と人権」をテーマに、人権教育講演会を実施することができた。 来年度も各学期で学年毎に実施するように計画したい。
	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の実践的指導力の向上 教職員の人権意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 職員、生徒の学校評価アンケートにおいて、人権教育の取り組みが「できている」の回答90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員1回以上の校外研修への参加 毎年1回行う人権レポートの提出 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全員の研修参加はできなかったが、意欲的に参加していただける体制は整っている。 人権レポートは全ての職員に提出してもらうことができた。
	計画的な人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県人権教育・啓発基本計画を踏まえた、泉分校の人権教育の計画を全教職員へ周知する 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の指導方法等の在り方について「人権教育取り組みの方向」(県教委)の実践に取組む 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会における年間指導計画の精選 昨年度計画の指導内容改善を図り、充実した人権教育の実践 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期 <ul style="list-style-type: none"> 1年 インターネットと人権 2年 ハラスメントと人権 3年 言わない・書かない・提出しない取り組み 2学期 <ul style="list-style-type: none"> 人権教育講演会 部落差別・ハンセン病・水俣病をローテーションで実施し、3年間で全てを学習するよう計画する。

						<p>今年度は部落差別と人権を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学期 1年 部落問題 2年 北朝鮮拉致問題 3年 性的マイノリティーと人権 <p>年間をとおして実施内容を精選し、PDCAサイクルを確立させた。</p>
	命を大切に する心を 育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命の尊さや生きることの素晴らしさ等、生徒一人一人の自覚を全教職員が一丸となって深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目において人権教育の視野に立った指導を意識し、命を大切に する心を育む取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力をとおしてお互いを尊重し合える態度を育成する指導の実現を目指して、各教科、各科目の更なる連携の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査では生徒・保護者の項目で90%を上回る回答を得られた。職員のアンケートでは100%を達成できた。
いじめの 防止等	いじめ問題への 取り組みの 強化	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ根絶の取り組みを充実させる ・人間関係の構築ができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のいじめに対する認識を高める研修の実施 ・いじめが背景に疑われる重大事態認知件数0件 ・いじめの問題を自分の問題、自分たちの問題として考えることができる ・悩みを抱えたときに相談できる関係性を作る ・コミュニケーションの重要性や多様なコミュニケーションを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する職員研修を実施 ・年3回の心のアンケートの実施 ・心のアンケート実施後に全員と個人面談を実施 ・心のきずなを深める標語を募集し、優秀者を表彰 ・クラスごとに心のきずなを深める行動計画を策定 ・教職員間で生徒情報を日常的に共有 ・学期始めに教育相談期間を設定 ・巡回指導の実施 ・全校集会を実施 ・文化コミュニケーション事業の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートの3回実施、職員研修、標語の募集と表彰、毎学期の教育相談、全校集会、巡回指導、文化コミュニケーション事業は実施した。 ・毎学期に全員と個別面談を実施し、その結果を職員間で共有できた。 ・キャンプ実習以後、学級内の人間関係の構築が進んだ。 ・文化コミュニケーション事業の効果は非常に高いと思われるが、担当職員の負担が大きい。 ・2学期までで、重大事態には該当しないが、累計3名のいじめを訴える生徒がいる。 ・左記や上記は、安心して楽しい学校生活を送るための「いじめ防止」の手立てである。いじめが確認されたため、今後も改善し続けることが必要である。
特別支援 教育	特別支援 教育の理 解	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に対する教職員の理解や実践的指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の校内研修の実施 ・校外研修会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修を含めた校内研修の充実 ・校外研修会への積極的な参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修を1学期と2学期に実施した。オンラインを含む校外研修会へコーディネーター以外の職員で2名の参加があった。 ・コーディネーターが参加した研修についてはその内容に応じて復講という形で校内研修を行った。
	支援体制 の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒に関する教職員間の共通理解と個々に応じた柔 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒に関する情報の整理 ・特別支援教育推進委員会を中心とした 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒カルテ」の充実 ・個別の教育支援計画・指導計画の活用 ・コーディネーターによるケース会議の 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果：特に支援が必要なケースは、SSWやSCの外部専門機関と連携し、ケース会議を開いた。 ・課題：担任を中心に、一部の職員に負担が偏った。また、生徒力

		軟な支援	支援体制の確立 ・ケース会議の実施	企画・実施		ルテに綴じる諸計画の配付が遅くなった。
地域連携(コミュニティスクールなど)	泉分校ができる防災型コミュニティスクールの整備	・災害時に臨時避難所を設営する際の職員の役割確認	・避難訓練を行う中で教職員の役割確認 ・地域の避難訓練等に参加	・地域住民の方との緊密な協力体制の確立 ・緊急時用の防災用品の点検・確認	B	・土砂災害避難確保計画作成にあたり、泉支所との協力体制の確認を実施した。 ・緊急時用品等は、年間、二回の賞味期限確認や点検を実施した。
	泉町の地域住民と交流を図り地域理解に努める	・泉町の行事等に生徒、教職員を派遣する	・生徒会や学校農業クラブ等生徒が主体性を持って行事に参加する環境の醸成	・お茶まつり、町民文化祭および泉まちづくり協議会主催のイベント、挨拶運動の企画・積極的参加	B	・今年度は多くの行事、イベントが変更や中止となる中で、生徒が関われる範囲の中で積極的に活動を行った。
環境整備	教育環境の整備	・日常点検と整備の徹底	・教職員、生徒、保護者の「掃除や整理整頓ができています」の回答80%以上	・校内美化活動の推進 ・落ち着いた学校環境の維持 ・定期的な整備、点検の実施	A	・職員、生徒、保護者のすべてにおいて肯定的評価が80%以上であった。 ・保健環境部が毎学期実施する安全点検を元に、施設・設備の改修計画的に実施することができた
	心身の健康の保持増進	・健康診断後の受診率の向上 ・SCと連携した健康相談活動の充実	・歯科受診率50%以上 ・眼科受診率50%以上 ・SCの定期的なカウンセリングの実施	・未受診者に対する定期的な個別指導の実施 ・月1回以上のSCによるカウンセリングの実施 ・SCを講師とした職員研修の実施	A	・歯科受診率は1月末時点で50.0%、眼科受診率は100%を達成した ・SCによる生徒のカウンセリングを実施するとともに、職員研修を実施することができた。

4 学校関係者評価	
<p>(1) 魅力や特色のある活動は充分行われている。より多くの人にどうやったら発信できるかが課題の一つだと思う。</p> <p>(2) 地域の実情を考慮し、少人数の学校でも存続できるように願いたい。また、今後を見通した生徒達の住居の確保も必要ではないだろうか。</p> <p>(3) 学校説明会の限られた時間で伝える難しさがあるなか、よく工夫されていると思う。欲をいえば説明会資料、PPの一部に生徒目線を入れてみても良いのではないのでしょうか。</p> <p>(4) HPは硬さがなく親しみやすいので楽しみにしている人は多いのではないのでしょうか。あとは中学生に見てもらえれば更に良いと思います。</p> <p>(5) 働き方改革において、現場と机上では大きく違います。時間外勤務について現場の声が届くシステムがあれば先生方も助かると思う。</p> <p>(6) 「いじめ」の発生については、もう少し広く周知しても良いのではないかと思います。</p>	

5 総合評価	
<p>本年度の学校教育目標から5つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。</p> <p>(1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実</p> <p>① 確かな学力の育成について</p> <p>(ア) 一人一台端末の導入により、教科のICT化が急速に高まった。生徒の学びに対する意欲は確実に高まったものとする。</p> <p>(イ) 泉分校の学習内容は、生徒の興味関心を高める取組みや基礎学力の定着に向けた取組みも評価されている。専門教科における実習のあり方や臨時休校期間中等の学習内容等が課題である。</p> <p>(ウ) 進路指導・学習指導等に対する保護者からの評価は非常に高い。生徒からの評価は学年が上がるにつれて高くなる。今後、更なる基礎学力の定着に向けた取組みを強化する。</p>	

(エ)基礎診断ツールの活用等には、改善の余地が見られた。

②個に応じた指導の充実について

(ア)親身になった進路指導への取組みについては、教職員・生徒共に約2割が低い評価となっている。生徒評価については学年の追うごとに低評価は減少している。

(イ)特別支援教育に関しては、職員研修の実施や外部の専門機関等との連携などが図られ、生徒・保護者アンケートにおいても概ね高い評価となっている。

(ウ)今年度は学校の活動をとおして以下の受賞と特色ある活動を行うことができた。このような取組みについて、多くのマスコミにも取り上げられた。しかし、このことは単なる泉分校の情報発信で終わるものではなく、生徒にとって学習の動機づけや学習意欲を向上させることが目的である。

- ・県農業クラブ年次大会で、プロジェクト発表意見(Ⅲ類)において優秀賞を受賞
- ・令和3年度の全国総合文化祭(和歌山大会)への出場し優良賞受賞
- ・県高等学校弁論大会で、(4位)を受賞、
- ・第17回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト 地域文化研究部門(団体)優秀賞
- ・地域特産を活かし「白川夜市」参加
- ・泉地域「ゆず収穫ボランティア」

(2)キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実

①キャリア教育の充実について

(ア)外部機関の協力を得ての企業見学等が系統的に行われ、生徒の職業観や勤 労観の育成に繋がっていると考えられる。今年度はインターンシップが一部実施できなかったが、生徒アンケートでは、現場実習や校外研修への取組みについての評価は低くない。

(イ)専門教科の実習において、他者を理解することや協働することを授業内で体験的に学んでいる。しかし、キャンプ実習を始め、地域の小学校との交流学习が実施できなかった。

(ウ)コロナ禍であり充分ではなかったが、八代市泉支所や地域のコミュニティセンターと連携して実施したイベントは地域の課題を生徒が主体的に解決を図る学習に取り組んだ。

②個性を生かす進路指導の充実について

(ア)インターンシップにおいては、各生徒の進路希望を踏まえた事業所等での実習を行う予定で準備を進めていたが一部中止となった。充分ではなかったが、この期間をとおして生徒が自らの職業適性や進路意識の向上が期待できる機会となった。

(イ)ハローワークとの連携により、より生徒の実態に応じた個別の進路指導や支援が実施することができた。ジョブコーチや就職先への支援移行の手続きも行われている。

(ウ)生徒及び保護者アンケートから、親身な進路指導については概ね満足できるという結果であった。

(3)道徳教育の充実と命を大切にす心の育成

①道徳教育の充実

(ア)道徳性の育成について「全く当てはまらない」と回答した生徒が各学年に見られた。反面、保護者のアンケートには「当てはまる」「よく当てはまる」の回答のみであった。

(イ)年間をとおし人権に関する職員研修を実施した。外部講師を招き生徒と共に人権について深く学ぶ機会を得た。次年度は更に人権意識を高める環境をつくりたい。

②命を大切にす心の育成

(ア)「命」や「人権」の大切さについて丁寧な指導をしているか、の問いに対しては生徒・保護者・教職員のアンケートで評価されていた。

(イ)いじめ問題等の未然防止のアンケートについて1年生の生徒評価は低かった。全ての生徒・保護者から高く評価される環境、いじめのない環境を構築するために改善を図りたい。

(4)国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚を醸成

①国家・社会の形成者としての資質の育成

地域の歴史や文化を学ぶ校外学習の実施や地域のコミュニティセンターと連携してイベント実施などに生徒主体での取組みができた。地域ボランティアも実施できた。

②国際社会に生きる日本人としての自覚を醸成

今年度も、対外的な行事等の大半が中止や延期、規模縮小となり、生徒の活動も制限された。Webでの交流など移動を伴わない交流のあり方等の工夫が必要である。ICTが大きく活躍した。

(5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実

①体力の向上、心身の健康の保持増進について

(ア)課題を抱える生徒への、教職員による早目の声掛けや面談、家庭訪問等を実施し、課題の早期発見、解決を図っている。継続的な指導が必要である。

(イ)SCやSSW、関係機関との積極的な活用と連携により、課題の早期解決に取り組むことができたことから、これらの取組みを充実させる。

②安全教育の充実について

(ア)避難訓練(火災、津波)を各学期で実施した。毎日、教職員で通学路の安全点検を実施した。

(イ)交通安全教育の取組みで、今年度は自動車学校の先生からの講話が実施され、交通安全への意識向上に繋がった。

(ウ)生徒が自他の健康や生命を守るための安全教育を、各部で行うものでなく、総合的に捉える指導のあり方が必要である。

6 次年度への課題・改善方策

(1)職員の働き方改革

①昨年度から校務分掌の見直しを行った。依然として教職員の負担感が強い。時間外勤務時間については、毎月右肩下がり傾向を示すが、昨年度の同時期に比べ時間外業務時間が増加している。今後も業務の効率化や学校行事の見直し、出張の精選等をさらに進める。

②校務分掌内での協力体制づくりや業務量の平準化を主任主事を中心に取り組むことを目標としており今年度も概ねなされているという評価であり、さらに取組みを進めていきたい。

③各職員がそれぞれの働き方・ワークライフバランスを再検証し、個々の意識改革を図る。組織やチームでの取組みができる環境を更に構築させる。

(2)生徒募集の強化

①中学1年生、2年生からの個別の学校訪問が多く見られ今後の入学希望者増加を期待する。

②今年度も十分な中学生体験入学が実施できなかった。本校の特色を直接伝える機会が十分に準備できなかった。HP上での実施など、内容の見直しと実施後の参加者への働きかけを行う。

③新年度の学校パンフレットを早期作成し、1学期から始まる学校説明会時に配布できるようにする。

④学校ホームページをさらに充実させる。

⑤生徒の学習成果の発信(発表会等への参加、新聞等への取材依頼)を積極的に行う。

⑥魅力化推進事業により学校独自のリーフレットを作製した。同時に学校紹介アニメも作製した。今後中学校を中心配布予定である。

(3)教育課程・学校設定科目の見直し

①令和4年度からの新学習指導要領への移行に向け、現状にあわせた評価規定を充実させる。

②学校設定科目を調整した新教育課程における専門教育内容の見直し。

(4)特別支援教育の充実と個々の生徒に応じた教育の充実

①特別な支援を要する生徒や課題を抱える生徒への合理的な配慮や支援について、教職員のスキルアップを図るとともに、組織的に取り組める指導や支援の体制づくりをより一層進めていく。

②各生徒の進路実現に向け、外部の専門機関等と連携しながら1年次より系統的に取り組む。

③各生徒の学習到達度に応じた学習指導の充実を図る。

④専門機関や外部との連携を更に図り、「チーム」として対応できる組織を構築する。

(5)指導力向上(学習指導・生徒指導)

①校内での研究授業を各教師が、年間1回以上実施する。

②他校の公開授業に各教師が、年間1回以上参加する。

③ICTに関する指導力を底上げする。

④いじめ問題等の職員研修を充実させる。

⑤生徒に寄り添った生徒指導力を身に付けるための校内研修を実施する